

成田セイリユウ

滋賀県議会議員（大津市選挙区）

成田セイリユウ プロフィール

1974年8月15日大津市生まれ
唐崎小、中、膳所高、龍谷大学法学部政治学科卒業
同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程修了
宅地建物取引士 / 大津市消防団地域防災指導員
教育・文化スポーツ常任委員会 委員長 / 地方創生・ICT 対策特別委員会 委員
議会改革検討委員会 副委員長 / 第11回マニフェスト大賞 優秀政策提言賞受賞
〒520-0106 大津市唐崎 1-20-28 mail@narinari.net



滋賀県議会活動 NewsReport Vol.63 2021年冬号

未来への責任

世界的に広がっている新型コロナウイルス感染症は収束の見通しが立たず、県民の生活や経済に深刻な影響を与えております。また、気候変動が起ると考えられる災害等が世界各地で頻発し、琵琶湖でも全層循環が起こらないなど、滋賀県の環境にも大きな影響がでてきております。

滋賀県は、比良比叡をはじめとした山々や琵琶湖など四季折々の変化に富んだ豊かな自然の恵みのもと、歴史を刻み、文化を育んできました。今を生きる世代の責任として、環境に配慮し、人にやさしく、環境と社会と経済が調和したポストコロナの経済社会を構築していかなければなりません。未来に笑顔あふれる社会を築くために、本年も頑張っております。

成田 政隆



新型コロナウイルス感染症対策

11月定例会議では、基金の創設や市町と連携したワクチン接種体制の確保、ひとり親世帯への臨時特別給付金の年内再支給、県制度融資の期間延長など、約46.5億円の補正予算について、審議し、可決しました。

新型コロナウイルス感染症の第三波が到来している中、引き続きの手洗い、マスクの着用、人と人の距離を保つ、3密を避けるなど基本的な感染対策のご協力をお願い致します。



新型コロナウイルス感染症対策等令和3年度予算と施策に関する提言書の提出

11月県議会 補正予算の概要

- **PCR検査等にかかる公費負担の増額** (約5億3973万円)
季節性インフルエンザの流行期に備え、PCR検査等に係る公費負担を増額
- **滋賀県新型コロナウイルス感染症対策基金の創設** (約9億585万円)
感染症拡大の影響を受けた事業者の事業継続支援等、新型コロナウイルス感染症対策の円滑な実施を図るため、新たに基金を設置
- **県立施設等における衛生環境改善の推進事業** (約20億1418万円)
感染症予防の観点から文化・スポーツ施設や県立学校等のトイレの洋式化や手洗い場の自動水洗化などを改修
- **学校教育活動再建支援事業** (8200万円)
感染症対策等を徹底しながら児童・生徒の学習保障をするために必要な物的体制を整備するための経費の増額
- **スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー活用事業** (2023万円)
コロナ禍でストレスを受けることなどにより、困難な状況にある子どもたちを支援するため、スクールカウンセラー等の配置を拡充

環境政策について

成田 2050年CO₂実質ゼロに向け、具体的な数値を明記したシナリオを作成すべき

三日月知事 2050年CO₂ネットゼロに向け、いつまでにどの程度の対策を講じる必要があるか、1つの拠り所とするためのシナリオとして「2050年しがCO₂ネットゼロ社会像」の検討を進めている。

成田 2年連続全層循環が確認できなかったことや、貧酸素の状態が琵琶湖にどのような影響を与えるか

三日月知事 北湖において、底生生物への影響が懸念される「溶存酸素量が2mg/Lを下回る貧酸素状態の水域」が、湖底から水深80m付近にまで広がってきている。貧酸素状態の水域では、底生生物であるイサザやヨコエビの死亡個体が確認されるなどの影響が生じており、さらに今後、窒素やリン、金属類などが、底泥から水中に溶出することも懸念される。

成田 貧酸素の影響について調査研究をさらに進める必要があるのでは

琵琶湖環境部長 琵琶湖環境科学研究センターでは、これまでの水深80mの地点から、水深70m地点付近にまで範囲を拡大して調査を実施。水産試験場では、沖合の底層に生息するイサザとエビ類について、水深別に生息状況の把握。各機関が調査・研究を進めると同時に、互いに連携し、情報共有を図り、貧酸素が琵琶湖環境に与える影響について、引き続き、しっかりと把握していく。

成田 南湖では、水草の大量繁茂が生活環境や生態系などに深刻な影響を与えている。継続的な根こそぎ除去を含め、引き続きの取組の推進が必要

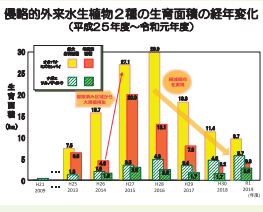


琵琶湖環境部長 その年の気象条件等によって、再び大量繁茂する可能性もある

成田 侵略的外来水生植物対策について、地域と連携を取りながら、巡回・監視

による拡大防止に向け、早期発見・防除に向けた体制づくりの推進が必要

琵琶湖環境部長 徹底した駆除、巡回・監視等の取組により、機械駆除が必要となる大規模群落はほぼなくなり、低密度状態を維持する段階へと移行。新たな生育地点へは緊急的な駆除等、拡大防止、早期防除に努め、石組み護岸等、駆除が困難な群落に対する防除手法の検討にも着手。



成田 森林の公益的機能を高める水源林巡視等の取組の評価について

琵琶湖環境部長 琵琶湖の貴重な水源林について、その保全に支障のある兆候を可能な限り早期に把握し対応につなげることは、特に災害多発傾向にある近年において、極めて重要。生産森林組合等の大規模な森林所有者が、自ら管理する地域の水源林の保全活動にも支援を行っており、森林の公益的機能を高めるうえで、水源林保全巡視員制度とともに重要な取組とも認識。

成田 森林を生物多様性に富んだ健全な姿で次世代に引き継ぐため、また森林の吸収機能を高めるために、森林の管理体制を強化していく必要がある

琵琶湖環境部長 森林・林業行政の執行体制が十分でない市町があると認識しており、今後も継続的に市町を支援することで体制の強化に努め、市町と一緒に、森林整備や放置林対策等を進めることにより、森林吸収源の確保をはじめ多面的機能の持続的な発揮に向けて取り組んでまいります。

成田 環境政策に対する財源を確保するためにも、グリーンボンドの発行をしてはどうか

三日月知事 琵琶湖の保全再生をはじめ環境政策の一層の推進に向けては、民間資金の獲得を含む財源の確保が重要。本県の取組姿勢をPRできることや、資金調達の多様化等も認められることから、先進事例も情報収集しながら、発行コスト等も勘案し、研究を行っていく。

山の利活用について

成田 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、新しい生活スタイルの下、密から疎へと、三密を避けられる自然に注目が集まっている。新しい生活スタイルの下、「やまの健康」の取組をさらに推進させていくことが重要であるが

三日月知事 やまの資源を活用して農山村の魅力を高める取組に併せ、都市における住民や企業をやまへと導く取組を進めることとしており、「新しい生活スタイル」を都市側のニーズとして捉え、農山村の優位性を活かした取り組みにより、地域の活性化に繋げていきたい。

成田 山城跡や古戦場、旧街道など、山々にある歴史的資産の活用について

商工観光労働部長 コロナ禍における滋賀らしいニューツーリズムとして、歴史的資産を巡る観光は、密になりにくいことから、市町や地域の観光協会、観光関連事業者等の皆様とともに、観光資源として価値を再発見していただけるよう、引き続き観光素材として磨き上げてまいります。



山岳遭難 (11月末現在)

発生件数: 72件 77人 (7件増加、3人減少)
態様: 道迷い 24件 滑落 16件
転倒 14件 その他 18件
県警へ: 17回出動
防災へ: 49回出動

成田 安全を確保していくためには、山の難易度を知ることが重要。主要登山ルートの難易度を情報提供し、登山者が「自分の力量に合った山選び」ができる山のグレーディングの導入について

三日月知事 滋賀では、気軽に登れる低い山や里山でも遭難が発生していることから、基本的な山の知識をしっかりと持ち、登山時には装備をしっかりとし、無理なく登山をしていただくことが大切。県HPにおいて、山の魅力を伝え、楽しく安全に登っていただくため「滋賀の山ガイド」で必要な情報を紹介。山岳関係者などにも相談しながら、他府県の事例も参考に、滋賀の山のグレーディングについても研究してまいります。

成田 貴重な自然を守るために必要な箇所にはルールを設定するなど、自然公園の適切管理を行っていく必要があるが

琵琶湖環境部長 コロナウイルス感染症の拡大に伴う新しい生活様式が定着しつつある中、今後ますます自然公園施設を訪れる人の増加が見込まれることから、適正な維持管理に努めるとともに、お互いに気持ちよく利用してもらえるよう、他の都道府県の事例等を参考に利用マナーやルールの啓発について研究してまいります。

成田 山の暮らしや登山など、人によって山の楽しみ方は様々あるが、山の魅力の発信について

三日月知事 滋賀のやまは、眼下に広がる琵琶湖の眺望が素晴らしく、史跡指定されている歴史的資産も多いなど、心も体も癒されるだけでなく、このコロナ禍において、適度な疎の空間を楽しんでいただける有効な観光資源であると認識。